

第5学年「社会」学習指導案

授業者 佐藤 孔美

2月22日(木) 4階A室 9:00~9:40

1 題材名 「誰もが働きやすい社会のしくみについて考えよう」

2 題材について

(1)【場面設定】：「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を生じる問題」を扱う内容

誰もが働きやすい社会の在り方とは、どんな姿が望ましいのであろうか。宅配便で働く人の様子から考えよう。

(2) 本題材と子どもたちとの関わり

① Y運輸の現状からその問題点について考える

私たちの生活は、今や、宅配便の存在なくしては成り立たない。どこかに出かける時は荷物だけ送って手ぶらが可能。旅行先からも、お土産は持ち帰らなくても届けてもらえる。必要な物はわざわざお店に足を運ばなくても、パソコンのクリック一つで簡単に手に入る。創業者のもとで働いていたY運輸の社員たちは、「日曜日は休日」という当たり前のことが保障されていて、家族との一家団欒の時間が確保されていた。ところが、日進月歩の情報化社会の波に飲み込まれてしまい、今やY運輸の過酷な労働状況は問題視される現状へと変わり果てた。Y運輸の社員の「日曜日は休日」という保障も家族との一家団欒の時間さえも、私たちが便利さを追求するあまり取り上げてしまい長時間労働という悲しい実態に追い込んでしまったのである。更に、2013年にはY運輸はネット通販大手の「Aジャパン」の配達を始め、取扱量がさらに急増した。しかし、荷物量の急増や再配達、人手不足などが生じ、世間からの批判を浴び、働き方の見直しに迫られた。2017年の4月には、Y運輸は、その問題と真に向き合い、配達時間帯指定枠を見直し、正午から午後2時までの配達を、ドライバーの昼食時間を確保するために廃止とした。見えない陰で過酷な労働条件を強いられ、従わざるを得ないという社会の在り様に対して、Y運輸の様に子どもたちとともにこの問題に真剣に考えたいと思った。

② 多様な「判断の基準」から様々な立場の人が幸せになれるような「判断の基準」を考える

物を購入する際に、大手通販会社を「使うか否か」と問われれば、多くの人が便利な方を選ぶであろう。しかし、その陰では、過酷な労働条件の現場があり、社員としては、従わざるを得ないことも事実であり、私たちが見えない社会の様子を見える事実から検証していかなければならない。便利な社会を追究していくのか、ここで一旦立ち止まって少し我慢をする生活を選ぶのか、様々な立場による様々な「判断の基準」が存在する。多様な「判断の基準」から様々な立場の人が幸せになれるような「判断の基準」を子どもたちが見出していける授業を展開したいと考えている。

3 学習指導計画 (7時間目/全8時間)

- 1時：宅配便での経験・歴史を知り、宅配便における伝票の仕組み(再配達の事情等)を理解する。
- 2時：宅配便の仕事をする人たちの、荷物を早く届けるための工夫や苦勞について真剣に考える。
- 3時：Y運輸の輸送量が急増したグラフからその理由を考え、その現状を知り、学習問題をつくる。
- 4～6時：本問題に対する宅配便の現状や様々な資料を集め、話し合いを通して自分の考えを構築する。
- 7時：論点を絞り根拠を基に問題に対する話し合いを通して、「判断の基準」について考える。(本時)
- 8時：誰もが働きやすい社会の仕組みについて、自分の考えをまとめ、再構築する。

4 本時について

○本時のねらいと予想される本時の展開

予想される子どもの姿	留意点
<p>○本時の課題を確認する。【宅配便に定休日(日曜日は休み)を設定すべきだろうか】</p> <p>★設定しない：インターネットからすぐに物を買えるこの便利な生活はやめられない。通販で買うのは私たちの時間の有効活用ができる。宅配便の利用料金を値上げすれば、利用する人が減るので、労働時間を短縮することができないか。</p> <p>★設定する：宅配便で働く人も、家族と過ごす時間を大切にしたい方がよいから、私たちはがまんするべきだ。今の私たちの生活を見直し持続可能な社会の実現に向けて考える時期にきている。通販で購入し物が届くことより、実際に自分でお店へ行くことで商店街も残り経済効果も持続できる。</p> <p>○今日の話し合いから、重要視した「判断の基準」を基に、自分の考えを書く。</p>	<p>・宅配便の定休日を設定することの背景には、私たちが便利な生活を求めていることがあることを常に意識させたい。</p>